



# 3月の園だより

令和8年3月2日  
目黒区立目黒本町保育園園長



ランドセル紹介

沈丁花の香りがどこからか漂い春の訪れを感じます。5歳児クラスは歌や言葉、装飾など間近に迫った卒園式の準備で忙しい日々を送っています。先日何気ない4歳児クラスの子どもたちの会話の言葉遣いがいつもと違っていました。5歳児クラスの子の遊びや言葉を真似しているようで、自分たちも憧れのらいおん組になるという進級への期待を、少し大人びた言葉遣いをすることで表現していることにかわいらしさと頼もしさを感じました。それぞれのクラスの子どもたちが大きくなったことを喜ぶという穏やかで安心した環境を、保護者の方々、保育園がこれから先もずっと守っていきたくと改めて感じました。

今年度を振り返ると、南部地区の保育園の交流を一層深めてきました。5歳児クラスは自己紹介やゲームを通して他園と親睦を図るなかで、直近の交流では顔見知りになった子どもたちと「同じ小学校だね」と就学を話題にした会話を弾ませています。新しい環境では友達の存在が心の支えになります。保育園、小学校が連携をとりながら目黒の子どもたちを地域で援助していくという取り組みを今後も続けていきます。

今年度もあと一か月となりました。園運営にご理解、ご協力をいただきありがとうございました。



小学校交流



鉛筆を使ってみよう

## 行事予定



卒園式  
ポニー教室

5歳児  
4、5歳児  
中旬 身体計測

お別れ遠足  
お別れ会  
避難訓練

3～5歳児  
全園児



## こんなに大きくなりました



### らいおん組（5歳児）

「一人ひとりが輝いて」



お家作り



子ども劇場背景作り

友達と一緒に考えること、一緒に頑張ることを繰り返し、仲間になってきたらいおん組の子どもたちです。一年間続けたドッジボールでは勝ち負けが楽しいだけではなく、それぞれが得意にしていることや自分だけが気づいている戦いのコツを実践して楽しんでいます。ボールを投げることは友達にたくし、こぼれ球があると相手のコートにボールが転がっていかないように全身を使って取りにいくことが誰よりも素早くできる子、ボールの道筋をよんで、飛んでくるのが一番遠いところはどこか考えてコートの端に行くことが得意な子、負けて悔しくて泣いている子がいると「負けて悔しかったよね 今度また頑張ろう 自分も負けて悔しかったよ」と慰め上手な子、「無限ループにするために、あっちに行って待っていて」と指示を出しながらチームを引っ張る子と様々な姿でゲームに参加しています。子どもたち一人ひとりが自分を信じ、友達を信じながら自分の力を発揮しています。好きな遊びがあることが子どもたちの成長に繋がっています。

## ひよこ組(0歳児)

「 やってみるね 」

一人の子が室内に作った坂道の上下りをしていると、その様子を少し離れたところから“やりたい、でもドキドキ”という表情で見ている子がいました。「たのしそうね、のぼってみようか」と保育士が傍に行き見守っていると、坂道のところに行き一歩ずつ上りはじめ、上まで行くと保育士の方を見てにっこり笑います。保育士が拍手して嬉しさに応えると、今度は“いくよ、みてね”と保育士に視線を送って下りはじめ、床に着くと自分で拍手して喜んでいました。「もう一回ね」と保育士が言葉にして返すとまた上っていきます。斜面を上り下りしながら保育士に向ける視線に微笑みを返すと、足取りも段々速くなり、その後もくり返し遊びが続きました。保育士が傍で見守り一緒に遊ぶ中で、子どもたちは安心して行ってみたい所ややってみたいことを広げています。



## りす組(1歳児)

「 ママみたい 」

「前日のおやつ“シュガートースト”のことを覚えていて、リクエストされたので朝食につくりました」とおうちの方が保育士に話しているのを聞いて、子どもたちのシュガートースト作りが始まりました。積み木にスプーンで塗る仕草をみると、棚の中に並べています。お母さんの朝食作りを真似してトースターでパンを焼いているところだということがわかります。「ママと食べたのね」と保育士が声を掛けると「うんうん」と力強くうなづいていました。別の日のままごと遊びではコップが倒れたのを見て布を保育士に差し出す子がいました。「ふきふきだね」と保育士が布を手でテーブルを拭いてみせると「ママ」とつぶやいたので、「ママが拭いてくれるよね」と返すと、自分の言いたいことが伝わり嬉しそうでした。それぞれ遊びは違っても「ママ」という言葉が繋がり、自分の家の身近なことを思い出しているようです。保育士とのやりとりで自分の思いが伝わる楽しさを感じながら、「ママのしていること」を再現したり、見立てたりして遊んでいます。



## うさぎ組(2歳)

「 一緒になってたのしいな 」

二人の子が棚の後ろに並んで座り、お皿をハンドルにして「ぶっぶ」とクラクションを鳴らしながら運転ごっこをしていると、その様子を見た他の子も乗り物に興味を持ち「バスでーす」と乗り物ごっこを始めました。保育士に「乗りにきてください」と声をかけ、声をかけられた保育士が周りの子を誘って「バス乗りに来たよ」と運転手の子に伝えると「どうぞ、乗っていいよ、ここに座ってください」と案内してくれます。席に着くと車の中で“ラムネ”や“ジュース”を食べたことを思い出して友達に振舞い、乗り物のイメージの中で自分が経験した楽しいことを再現して遊んでいます。友達と一緒に遊ぶことが楽しいと感じることが増えてきています。



## こぐま組(3歳児)

「 また一緒にあそぼうね 」

園庭で遊んでいる時に一人の子が他のクラスの子のバケツからぼたぼたとこぼれた水の跡を見つけて「恐竜の足跡だ、恐竜がきたのかも」と声を上げました。発見した嬉しさから声が大きく、その声を聞いた他の友達も来て「本当だ大きい、向こうにもあるかも」と一緒に足跡探しが始まります。中には“本当に恐竜がいたらどうしよう”と少し怖いと感じている子もいましたが、友達がライトに見立てたじょうごを持ちその子の足元を照らして「これがあるから大丈夫だよ」と言ったり、見つからないようにとひそひそ声になったりしながら園庭中を探検していました。ぽっくりを望遠鏡に見立て築山の頂上から探し「あそこにもある」と友達が知らせると、今度はカメラのつもりで構え写真を撮っては友達と顔を見合わせ嬉しそうです。発見や驚きを友達と一緒に楽しみながら、イメージを共にして遊ぶ楽しさを味わい、園庭に出る度に「今日もやろうよ」とじょうごやぽっくりを持ち、小石を恐竜の化石に、木の枝を骨のつもりにして探検が続いています。



## そう組(4歳児)

「 聞いて、聞くよ 」

二人で作ったアイスクリームでアイス屋さんをすることになりましたが、二人ともレジ役がしたいと譲れずなかなか始められません。アイスクリーム屋さんがオープンするのを待っていた周りの子は「そっか、二人ともやりたかったのか」と悩みながら「レジを二つにするのはどう」など真剣に考えて色々な提案をしてみますが“一人でやりたい”という気持は変わらず、理由をつけては首を横に振っています。「じゃあジャンケンにする？」と友達も根気よく聞いて、何とか二人と一緒に遊べないだろうかという新しい案を考えています。当の本人たちは、友達に自分たちの気持ちを沢山聞いてもらった事で気持ちがほぐれてきて、歩み寄る気持ちに変わり、最後は順番でレジをすることになりました。時間はかかりましたが、表情もにこやかに「いらっしゃいませ」と話を聞いてくれた友達と一緒に、店員になりきってアイス屋さんをしていました。思いがぶつかる事があっても、やっぱり友達と一緒に楽しく遊びたいという思いが育ち、友達の気持ちも聞きながら、遊ぶ姿が増えてきました。

## 新年度準備について

- 荷物の入れ替えなど新しいクラスの準備をします
  - 進級するクラスで保育をします
- ※詳細は各クラスに掲示します。ご協力お願い致します。

